

いほむじん

Homedoor Annual Report 2022



ほむじん

- 表紙写真の舞台裏 -



ほむじん

年次報告書のテーマは『ほむじん』です

設立13年目を迎えたHomdoorでは
現在20名を超えるスタッフを中心に
ボランティアや寄付者の皆さま
企業の皆さまと活動を展開しています

スタッフも年々増えてきたため
どんな思いを持ってここに集い
活動しているのか
応援してくださる皆さまにお伝えしたいなと思い
スタッフ一人ひとりを主人公に
いま何に悩み何をしようと思っているのか
そんな目線で活動を報告していきます

Contents

ほむじん -表紙写真の舞台裏-	03
Homdoor's 6 CHALLENGES	04
数字でふりかえる「チャレンジ」	06
「居宅の確保」とチャレンジ-モデルで見るチャレンジ①-	08
「就労の支援」とチャレンジ-モデルで見るチャレンジ②-	10
「福祉の活用」とチャレンジ-モデルで見るチャレンジ③-	12
Homdoor Press-広報部が取り組むチャレンジ「伝える」のレポート-	14
特集①暮らしを支えるアンドセンターとおかえりキッチン	16
特集②ハブチャリ10周年	18
特集③広報部がきいてみた-スタッフのホンネQA集-	20
会計報告	22
新事業「アンドベース」	24
法人ができること	26
ご寄付について	28

Challenge 1 届ける

ホームレスの人々向けに2013年から実施している夜回り活動を継続しています。またネットカフェ等、不安定な居住環境にある人たちに向けて、インターネット広告などを活用し、Homedoorや福祉サービスの情報を届けることにも注力しています。

Topic



電話料金を滞納している人に向けて、ソフトバンク株式会社と内閣官房の孤独・孤立対策ウェブサイト「あなたはひとりじゃない」の連携に協力！

Challenge 4 働くを支える

身分証や携帯電話を持たない人でもできる仕事づくりを自主事業および民間企業との連携で実施しています。滞在中から転宅後も就職を希望される方向けのサポートを本格的に開始しました。

Topic



2022年に就労支援員として2名のスタッフが入职し、仕事に関する相談に幅広く対応できるようになりました。

Challenge 2 選択肢を広げる

日本全国からの生活相談に電話・メール・来所に対応しています。相談者のお話を丸ごと受け止め、今後について一緒に考えることを大切にしています。個室の無料宿泊施設『アンドセンター』をはじめ、その方の状況に応じて使える制度や資源を提案しています。

Topic



相談員を中心に毎週ケース会議を行い、一人ひとりに合ったより良い選択肢を提供できるように検討しています。

Challenge 5 再出発に寄り添う

居宅の確保や新たな仕事を見つけた方の生活が安定し、再度困窮しないようにサポートを行っています。新生活での小さなつまづきを早期に解決するために1ヶ月後面談の設定や『おかえりチケット』の配布なども実施しています。

Topic



相談者向けの公式LINEができました。電話代を支払っていない人でも、携帯端末があれば引越した後の相談が気軽にできるようになりました。

Challenge 3 暮らしを支える

居所のあるなしに関わらず、誰もががほっと安堵できる場所を目指して、アンドセンターの団らんスペースを日中開放しています。ご寄付でいただいた食料・衣服類の提供や洗濯機、シャワー、フリーWi-Fiの利用などができます。

Topic



アンドセンター宿泊者を対象とした交流の機会『アンドカフェ』をスタート。スタッフとの関係性を深めるだけでなく、宿泊者同士での会話のきっかけにもなっています。

Challenge 6 伝える

誤解の多いホームレス問題を適切に理解してもらう機会をつくるべく、講演会を行ったり、メディアに出演したりしています。身近な社会課題であることを一人でも多くの人に知ってもらえるように、様々な角度から活動をお伝えしています。

Topic



相談支援の意義と課題を学術的な視点から明らかにしていくホームドゼミを行い、第15回貧困研究会での報告を行いました。

6 Homedoor's Challenges

= ホームドア6つのチャレンジ =

私たちは誰もが何度でもやり直せる社会を目指して、ホームレスの人々の路上脱出のサポートを行っています。

人は誰も生活を営むなかで、仕事や家庭、介護など様々な課題とぶつかります。社会基盤が安定していないと、頼れる人や環境が徐々に失われていき、生活困窮に至ってしまいます。誰ひとりとして同じ理由で生活に困ってしまうわけではありません。だからこそ、多様な選択肢を用意し、それぞれに合うサポートを考えたいと思っています。

どんな状況の人であっても、社会の歪みに足を取られてしまうことなく再出発を応援できるように、毎年チャレンジのなかで良かった点や改善点を洗い出すことを大切にしています。

6つのチャレンジをより精度の高いスキームにしていくために、これからも現場の声を大事にしています！

川口 加奈 / Kawaguchi Kana

理事長。14歳でホームレス問題に出会い、19歳でHomedoorを設立。今年には久々に登山にも挑戦します！

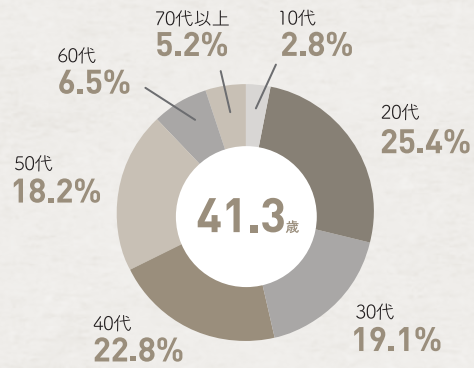


それぞれの状況に応じたサポートを

『生活困窮』といっても状況は様々で、長く野宿生活をしている人と、住まいはあるけれど居住権が侵害されている人では、生活環境や使用できるツールが異なります。多様な相談が増える中、一人でも多くの人に必要な情報が届くよう、時代にあったアウトリーチを考えていく必要があります。

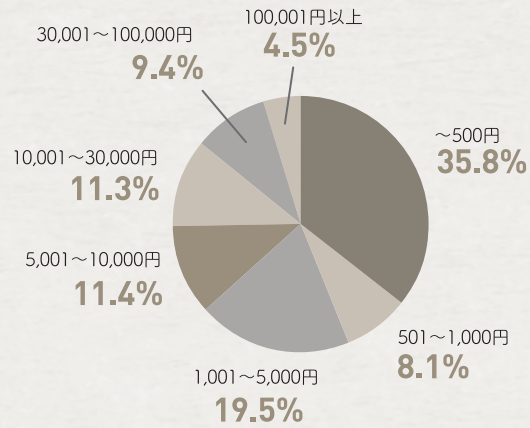
相談者の平均年齢（不明を除くN=690）

全体の約半数が30代以下を占め、全世代で20代が最も多くなりました。



相談時の所持金（不明を除くN=692）

交通費もままならない状況の方からの相談が多く、500円未満の人が全体の1/3以上を占めました。



相談時の起居の場（不明を除くN=802）

家に住んでいる人からの相談が最も多かったですが、家賃滞納により住まいへの不安がある人も多くいました。

自分名義の家	182人
他人名義の家	154人
ー 家族・パートナー宅	82人
ー 知人宅	72人
ネットカフェ	139人
路上・公園・河川敷	119人
ホテル・ドヤ・サウナ	67人
会社の寮	45人
駅・商業施設	25人
車中	16人
施設等	23人
ー 行政所有施設	12人
ー 刑事施設	8人
ー 病院	3人
その他	32人
合計	802人

アンドセンター宿泊後の経過（N=272）

安定した住まいをまずは確保したいという思いから生活保護を利用される人が多くいました。

居宅で生活保護を利用	169人
就労での自立	29人
ー Homedoorからの紹介で寮付きの仕事を確保	13人
ー 自身で寮付きの仕事を確保	10人
ー 自身で居宅と仕事を確保	6人
支援施設に入所	18人
ー 行政施設に入所	15人
ー 民間の支援施設に入所	3人
家族/知人宅に移動	8人
その他	48人
合計	272人

スタッフコメント

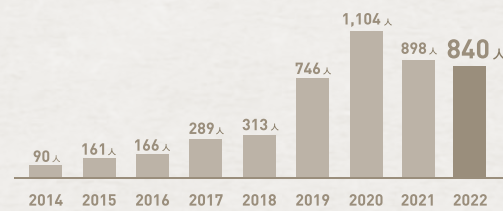
新規相談者数は減少したものの、活動が10年を超えのべ相談者が増えていることもあり、再相談者が127人もいました。今後も「困ったら、あそこに行こう」と思ってもらえる環境をつくりつつ、再度困窮しないような仕組みづくりにも尽力していきたいと思います！

松本 浩美 / Matsumoto Hiromi

事務局長。大学生時代よりHomedoorに参画。旅行先でスーパーめぐりをするのが好き。

新規相談者数の推移

コロナの影響が大きかった2020年度に比べると減っていますが、コロナ前と比べると依然として多い状況です。



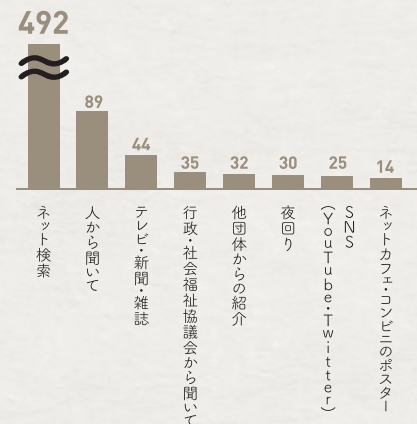
Homedoorを知ったきっかけ（不明を除くN=761）

全体の6割以上がネット検索となっておりますが、人から聞いてHomedoorのことを知ったという人も年々増えています。

また、夜回りで出会ったのべ人数は2022年度は1,199人となりました。夜回りを開始した2013年からは、累計11,457人です。

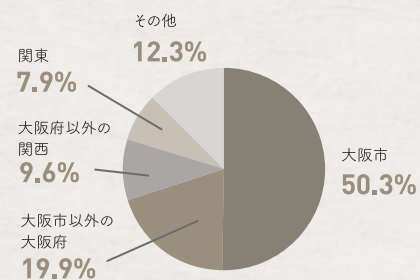
相談の経路（N=840）

全体の4割が来所に至っています。電話やメール、手紙など対面ではない相談も多くありました。



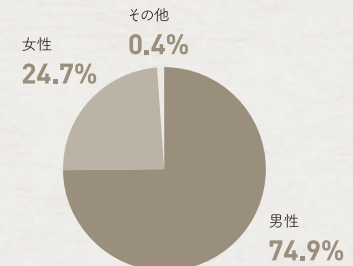
相談時の居所（不明を除くN=826）

団体のある大阪市内からが全体の半数を占めつつ、40の都道府県から相談がありました。



相談者の性別（不明を除くN=830）

前年度と割合はおおよそ同じで、女性の相談が約4人に1人の割合となっています。



居宅の確保で進む
生活の立て直し

事務所に来られる相談者の多くは、住まいがなく行くあてのない状態にあります。行政の支援方針は「まずは施設で様子を見て」となることが多く、共同生活が苦手な当事者のニーズに合っていない。そこでHomedoorでは「まずは居宅の確保から」を合言葉に、一人ひとりに合った住まい探しに力を入れています。

ケース①
「居宅の確保」
Aさんの場合
(40代)

専門学校を出て自動車整備の仕事をしてきたAさんは、職場で受けたパワハラにより失職。元々折り合いの悪かった父親から家を追い出され、ホームレス状態になっていました。

行政に相談するもうまくいかず…

Aさんは役所へ相談に行くも生活保護の説明が分かりづらかったとHomedoorに来所。スタッフが丁寧に部屋探しや生活保護の説明を行いました。

関連するチャレンジ
→ 02 選択肢を広げる

2

アンドセンター宿泊、医療にもかかり居宅確保

部屋探しはAさんの希望をもとに不動産会社に依頼。医療機関の利用もサポートし、一人暮らしの不安を減らした状態でアパートに引っ越しできました。

関連するチャレンジ
→ 02 選択肢を広げる
→ 03 暮らしを支える

生活保護の申請をサポートし
携帯電話も復活

生活保護の申請にはスタッフが同行。生活保護費が入るまでの食料の支援も行いました。その後、無事に生活保護が決定し、携帯電話を購入することができました。

関連するチャレンジ
→ 02 選択肢を広げる
→ 05 再出発に寄り添う



5

団らんスペースでの
緩やかな繋がり

アンドセンター滞在中から団らんスペースでスタッフや利用者と交流していたAさん。引っ越し後も定期的に来所し、相談者を気遣ってくれます。

関連するチャレンジ
→ 03 暮らしを支える

スタッフコメント／

住まいの確保をすれば解決というわけにはいかないケースも多いですが、住まいさえあれば仕事の経験などを活かし自力での生活再建に踏み出しやすい方もいます。「まずは居宅を確保してトライしてみる」ことの意義をAさんが改めて教えてくれたように思います。

永井 悠大 / Nagai Yudai

相談部門長。学生の頃から貧困問題に関心を持ち、新卒で東京のNPOにて相談業務に従事。休日は焚火をしながら広島球団を鼓舞している。

4

Homedoorでの
中間的就労を経て就職

Aさんの職歴を活かせる仕事として、HUBchariの再配置業務を中間的就労として提供。その後、自力でタクシー会社に就職されました。

関連するチャレンジ
→ 04 働くを支える



就労の支援で進む
生活の立て直し

引越後後思うように就労につながらず、再度困窮することがないよう、滞在中から就労支援員がお話を伺います。履歴書作成や、仕事探し、仕事を続けるためのアドバイスを行い、仕事体験を通じて自己肯定感の回復を図っています。引越後もご本人のペースに合わせて、寄り添いながら仕事の継続をサポートしています。

ケース②

「就労の支援」

Bさんの場合
(20代)

若くして全国を転々としたBさん。「安定した一人暮らしと、やりがいのある仕事があった」と大阪に来られましたが、思うようにいかず、Homedoorを訪ねました。

①

アンドセンター滞在中に 仕事の相談

相談者の多くが希望する『就労』ですが、一人ひとり困りごとは様々。Bさんも仕事の悩みは尽きず、お話を伺いながら、悩みを整理しました。

関連するチャレンジ

- 02 選択肢を広げる
- 04 働くを支える



②

仕事体験にチャレンジ

Bさんは「カフェで働いてみたい」という思いがありました。そこでHomedoorが運営するカフェ『おかえりキッチン』での仕事体験を実施しました。

関連するチャレンジ

- 04 働くを支える

4 就職するまでの 中間ステップ

1日からチャレンジできる仕事を提供しています。「やってみたらできた!」という達成感が自信となって次のステップにつながります。

関連するチャレンジ

- 04 働くを支える



⑤

就職活動のスタート

求人と一緒にしながら仕事内容や労働条件を確認し、働くイメージをつくっていきます。「これやってみよう!」という思いをサポートします。

関連するチャレンジ

- 04 働くを支える
- 05 再出発に寄り添う

希望にあった 就労支援のご紹介

「ハローワークに行ったことがない」「もっと情報が欲しい」との希望から『大阪わかものハローワーク』に一緒に行き、利用方法について確認しました。

③

関連するチャレンジ

- 02 選択肢を広げる
- 04 働くを支える

／スタッフコメント／

就労支援で大切にしているのはその人の価値観を大切に、どんな生活を送りたいのか寄り添いながらサポートしていくことです。仕事の探し方が分からない、やりたい仕事が見つからないという相談に応えていくことでその人らしい生活ができるようサポートします。

荻野 直基／Ogino Naoki

就労支援員。障害者福祉に17年従事後、貧困問題に関心を持ち、2022年10月に入職。バイクと音楽にうまれながら生きています。



小池 太晴／Taisei Koike

就労支援員。社会福祉協議会職員の後、2022年11月に入職。中学、高校はラグビー部。2023年ラグビーワールドカップが楽しみ!!



福祉の活用で進む
生活の立て直し

相談者の中には、障害や疾患をお持ちの方も少なくありません。いざ引っ越しをして一人暮らしをスタートしても、その後の支援不足で生活が危うくなってしまうこともあります。必要な福祉サービスをしっかり活用して安定した生活を送ることができるよう、引っ越し後のサポートにも取り組んでいます。

ケース③

「福祉の活用」
Cさんの場合
(50代)

児童養護施設で育ったCさんは、退所後長年ホームレス状態でした。足が不自由で、軽度の知的障害もあります。しかし、福祉サービスにはほとんどつながっていませんでした。

1 ホムパトで出会い、相談に

Cさんとはホムパト(夜回り)で出会い、事務所での食糧のお渡しも何度かしていました。そんなある日の相談会、団らんスペースで過ごすCさんから「自分も相談したい」と切り出されます。

関連するチャレンジ

- 01 届ける
- 03 暮らしを支える

2 アンドセンター宿泊、
居宅確保

生活保護を利用し、居宅生活をする選択したCさん。アンドセンターに宿泊し、部屋探しを行いました。生活保護の申請にはスタッフが同行し、手続きのお手伝いをしました。

関連するチャレンジ

- 02 選択肢を広げる
- 03 暮らしを支える

5 おかえりチケットが生活をつなぐ

アンドセンターからの引っ越し時にお渡ししている『おかえりチケット』。Cさんはおかえりチケットでランチやお茶をしに来所され、そのついでに相談をしてくれることで、こまめな対応ができました。

関連するチャレンジ

- 05 再出発に寄り添う

4 苦手な金銭管理
助けを借りながら

お金を使いすぎてしまう傾向のあったCさん。ご本人から金銭管理の相談があり、社会福祉協議会の『あんしんさぽと事業』を紹介。利用に至るまで、手続きなどをサポートしました。

関連するチャレンジ

- 05 再出発に寄り添う

3 一人暮らしの課題にチャレンジ

引っ越し後の生活状況の確認で相談ボランティアが自宅訪問。掃除や調理がうまくいっておらず、訪問介護を導入することにしました。その後Cさんより「ヘルパーさんと買い物に行った」などご報告も。

関連するチャレンジ

- 05 再出発に寄り添う

スタッフコメント

福祉サービスは手続きが煩雑で、実際に利用できるようになるまで時間もかかります。でも、生活は待ってはくれない…。そんなときにサポートを加えることで、その後の安定した生活が可能になることを、Cさんのケースで実感しました。おかえりチケットも効果的に働いてくれたと感じています。

浦越 有希 / Urakoshi Yuki

2021年10月より相談員。学生の頃から貧困問題を学ぶ。「美味しいものを美味しく食べる」がモットー。



ホームドゼミ

--- 社会に伝えるHomedoorの調査活動 ---

ホームドゼミとは、Homedoorのこれまでの活動について、元相談者へのヒアリングなどを通じてその意義と課題を学術的な視点から整理し成果物としてまとめるプロジェクトです。相談部門長の永井を中心に、2021年より開始しました。外部有識者のお力もお借りしながら実施中です。

調査の目的

Homedoorの活動について、その意義や課題を明らかにする

調査内容

① ミーティングの開催、プレ調査の実施

相談部門の永井・浦越を中心に、外部の有識者と先行研究のリサーチ、調査枠組みの検討などについて議論を重ねました。プレ調査を通じて10人の元相談者へヒアリングを実施した上で、本調査票の修正や今後の方針を決定しました。



② 本調査の実施

相談員だけではなく、外部の有識者、大学院生、Homedoorスタッフ、インターン、ボランティアなどが参加し、29人の元相談者にヒアリングを実施しました。ヒアリング内容を書き起こし、論点を整理しました。



③ 貧困研究会で発表

10月に行われた貧困研究会で、無事に調査結果を発表することができました。生活困窮者の方がHomedoorにつながってからの資源活用のありようや団体が果たしている役割について報告しました。



● 調査結果と今後に向けて

調査の結果、ハード面（アンドセンターやおかえりキッチン）と、ソフト面（相談員による面談・制度利用のサポート、スタッフや利用者同士のつながり）双方の資源が、相談者の生活再建に活用されているなど、Homedoorが果たしている役割が明らかになりました。今後は調査データを形にしていきたいと考えており、複数の論文化を想定しています。調査データは非常にボリュームがあるため、様々なテーマから論文を作成予定です。

＼有識者コメント／



白波瀬 達也さん
関西学院大学
人間福祉学部教授

29人の生活史を伺うことでホームレス状態を経験する人々の背景や支援の効用・課題がはっきり見えてきました。印象的だったのは若年層や女性の生活史です。国のホームレス調査で取りこぼされがちな人々の声を丁寧に拾い上げた点が今回の調査の大きな特徴です。把握させていただいた内容は学会等で発表するだけでなく政策提言にも活かしてく予定です。



HOMEDOOR PRESS

2022
↓
2023

H o m e d o o r 広 報 部 が 取 り 組 む チ ャ レ ン ジ 「 伝 え る 」 の レ ポ ー ト

PICKUP

4月

岸田総理の車座に川口が参加しました



総理大臣官邸で岸田総理と社会的起業家との車座対話が行われ川口が参加しました。各団体から取り組みの紹介に加え、社会課題を解決するためのビジネスが数多く生まれるには官民がどういった環境整備に取り組めば良いかと

いうテーマについて意見が交わされました。川口からは生活保護制度申請時における扶養照会の完全撤廃、福祉窓口対応の改善、認定NPO法人への寄付に対する税制優遇の見直しについて提言を行いました。

各種SNSで日々の活動の様子やメディア出演情報を積極的に発信中!!
ぜひフォローをお願いします!!!



計22件のメディア出演・掲載

5月

『朝生』に川口が出演

テレビ朝日系列討論深夜番組『朝まで生テレビ!』に参加し、若者世代の本音というテーマで討論しました。

6月

『アイム』、全国放送で特集

ホームレスの人々による写真集『アイム』が『情報ライブミヤネ屋』で放送され、在庫が一時完売となるほど反響がありました。

9月

AERA巻頭特集にて掲載

『縮むニッポンの処方箋』をテーマに川口が貧困再生産の現状、再挑戦できる安全網の構築の重要性について伝えました。

10月

日本経済新聞で連載

日本経済新聞の人気コーナー『人間発見』で、川口が最年少で登場! 4日にわたりインタビューが掲載されました。

11月

黒木瞳さんのラジオに出演

黒木瞳さんがパーソナリティをされているニッポン放送『あさナビ』に川口が出演しHomedoorの活動について紹介いただきました。

＼スタッフコメント／



今年度のメディア出演は22件となり、メディアをきっかけに応援くださる方も増えました。ホームレス問題は家族・雇用・健康など複数の不利が重なり合い起こっています。様々な方法でその背景を含めてお伝えしていきたいと思っています!

中司 年音 / Nakatsuka Nene

広報部門。2022年2月より入職。休日は海辺でBBQを楽しんでいる。



ある日のアンドセンター宿泊者の1日

10:00

朝の散歩・朝食（おかえりキッチンで作ったおにぎり）
事務所のゴミ出しのボランティアをしてくれる方もいます。



11:00

事務所に顔出しをかねて自室のゴミ捨て。
団らんスペースでホムド文庫（図書コーナー）の本を読んだり、
スタッフや他の宿泊者・利用者とお話したり思い思いに過ごします。



12:00

おかえりキッチンで無料のまかないランチを食べます。



13:00

相談員と今後について面談したり、団らんスペースでくつろいだり、
自室で休んだり、散歩しながら自由に過ごします。

14:00

おかえりキッチンで宿泊者に配る朝食用のおにぎり作りや、皿洗い
などのボランティアをしてくれる方もいます。

15:00



16:00

事務所で夕食と朝食用のおにぎりを受け取ります。

17:00

受け取った夕食は、シェルター2階の共同キッチンで食べる準備をして自室で食べます。
その後自室で読書をしたり、テレビを見てくつろいだり、夕方の散歩をしたり、それぞれの
時間を楽しみます。

スタッフコメント

『アンドセンター』『おかえりキッチン』は宿泊者や利用者にとって生活の場
です。サポーターの皆さま、ボランティアの皆さま、主役である宿泊者・利用
者、そして裏方であるスタッフ、みんなの気持ちが好循環する『心地よい居
場所』を創っていかたと願っています。

宇山 タ子 / Uyama Yuko

受付担当。2021年よりサポーター・相談ボランティアとして関わったのち、
2022年4月より入職。趣味は瞑想。スナックのママ的存在を目指す。

暮らしを支える

特集①

アンドセンターと

おかえりキッチン

相談者が安心して今後の生活を考え
られるよう、個室でゆっくり休めるシェル
ター『アンドセンター』での宿泊や、お腹
一杯食べられるカフェ『おかえりキッチン』
でのランチを無料で提供しています。様々な
背景から相談に至った方々が、再出発までの数
週間を安心して過ごせる場所を目指しています。

2022年度アンドセンター利用実績

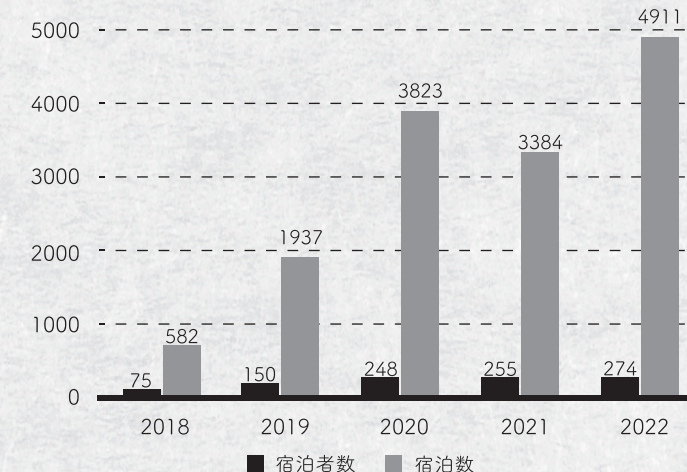
アンドセンター宿泊者は273人で、前年度255人より18人増加しました。年齢別では20代から50代がそれぞれ60人前後と多く、性別では男性が243人で約9割を占めました。また、アンドセンターの満床によりホテルを手配した人数は21人で71泊分でした。特に年末以降は観光客が大阪に戻りつつある状況でホテル宿泊費は高騰し、相談者の宿泊先の安定供給のためにシェルター拡充の必要性を強く実感しました。

2022年度 年間宿泊者数

274人



アンドセンター宿泊状況



2022年度おかえりキッチン利用実績

一般のお客さまにもご好評いただいている『おかえりキッチン』ですが、宿泊者にも人気です。昨年提供したまかないランチは、前年の1018食を大きく上回る2200食でした。

また、最近では、お手伝いをしながらそこを新たな『居場所』としている宿泊者や利用者が増えています。キッチンスタッフによる『食事を通じたサポート』が自然に行われています。

年間まかない提供数

2200食



特集
①

HUBchari

10th
Anniversary

HUBchariは、大阪の2大問題といわれる自転車問題とホームレス問題を解決しようと生まれたシェアサイクルです。2022年でスタートから10周年。今回はその特別企画として、HUBchariの10年間をふりかえります。

2021.12
大阪市北区と協働開始

2021.10
大阪市東住吉区と協働開始



2017.11
御堂筋への実験的設置



大阪のメインストリートの御堂筋へと、実験的に設置。期間限定にもかかわらず、多くの方にご利用頂きました。



2015.11
アメリカ村
ポートオープン

2012.9
大阪市住吉区と協働開始

2011.7
HUBchari実証実験実施



ホームレスの人々の特技を活かした就労支援として、シェアサイクル『HUBchari』を1週間限定で実施。



2013.2
外国人がつくる
OSAKA OTAKU MAP
発行

2013.4
大阪市北区と協働開始

2017.1
ドコモ・バイクシェア
システム導入



ドコモ・バイクシェアのシステムを導入し、ママチャリから電動自転車へ。システム化により、サービス拡大。

2012.4
HUBchari本格始動



ホームレス支援における新しいモデルを目指して本格的にスタート。最初は4拠点からでした。

2023.4
大阪市生野区・
天王寺区と協働開始

＼スタッフコメント／

2022年で10年目を迎えたHUBchariですが、ありがたいことにこの数年で飛躍的に利用者が増加しています。この先も、HUBchariをさらに広げ、ホームレス問題の解決につなげていきたいと考えています。ぜひ皆さまも大阪に来られた際はご利用ください。

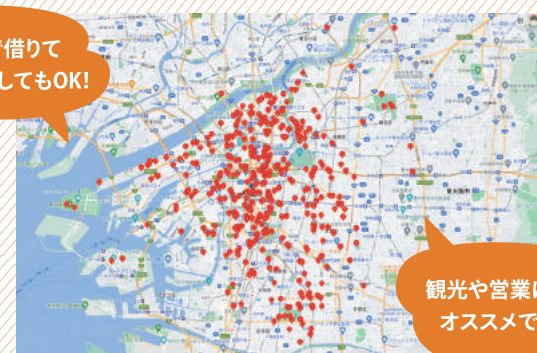


岡村 匠海 / Okamura Takumi

広報部門。主にHUBchari業務を担当。メーカー勤務を経て、2019年8月よりHomedoorに入職。子育て奮闘中。

HUBchari MAP

どこで借りて
どこで返してもOK!



観光や営業にも
オススメです

登録すれば大阪府下400以上の
ポートが24時間利用可能!

＼ご利用はこちらから／



ハブチャリ

これからのHUBchari -大阪万博に向けて-

生野区役所及び天王寺区役所とHUBchariが協働する『シェアサイクル実証実験』により、住民の移動利便性の向上と来訪者の回遊性の向上に資する新たな交通手段としてシェアサイクルの有効性を検証しています。2025年大阪・関西万博に向けて、シェアサイクルの利用を推進し、生野区及び大阪市全体を盛り上げていきたいと思っています!



生野区役所 地域まちづくり課
森本さん
生野区マスコットキャラクター『いくみん』

これまでのHUBchari -おっちゃん苦勞話-

5年前にHUBchari大阪ガスビルポートのスタッフとして働いていました。これまで接客業をやったことがありませんでしたが、よく来るお客さんの顔を覚えて、顔なじみになるように一生懸命努力しました。外での作業なので、暑い日も寒い日もありましたが、笑顔で接客するように心掛けていました。お客さんから「また借りに来ます」と言われて、嬉しかったことを覚えています!



元HUBchariスタッフ
佐藤さん

スタッフのホンネ

GA集

嬉しかったこと

日々いただくご寄付に、いつも感謝の気持ちでいっぱいです
広報・谷野

HUBchariの設置を元相談者たちが手伝ってくれたこと
広報・岡村

私の仕事をしている姿を見た相談者が「あなたはここに必要な人だね」と言ってくれたこと
広報・中司

結婚祝いを多くの当事者の方々にたくさんもらったこと
理事長・川口

相談者が元気になっていく瞬間瞬間に立ち会えること
相談員・永井

1年前に相談に来た方が今でも元気にしていること
相談員・浦越

「あのとき声をかけてくれなかったら、今の自分はありません」と言われたとき
就労支援員・荻野

相談対応未経験で入ったのでひとつひとつの対応に悩みながらやってきました
相談員・浦越

大変だったこと

緊急性の高い相談が多く、スピード感が求められること
相談員・小池

すべてが未経験の状況だったので、知らないこと、わからないことの連続だったこと
事務局長・松本

常識にとらわれずに新しい支援スキームをつくり続けたい
相談員・永井

皆さまに迷惑かからないようにしながら90歳まで勤務
受付・安武

夢

誰もが気軽に社会課題に取り組める社会を作りたい
広報・岡村

人（支援者・サポーター・利用者）と物や機会などがいー感じに循環する場所をつくりたいです
受付・宇山

ホームレス支援におけるロールモデルづくり
事務局長・松本

番外編 組織づくりの取り組み

- ① オフサイトミーティング実施
3～4カ月に一度、職場から離れた『非日常的な場所』でミーティングを行い、行動指針や入社した理由など様々なテーマについて率直な感情や意見を出し合ってじっくり話し合うことで、チームの強化を図っています。
- ② 新制度導入
より働きやすい環境にしていけるため、有給が付与されるまでの6ヶ月間で使える特別有給『ウェルカム休暇』や『資格手当』の導入、有給休暇を1時間単位から取得できるよう変更しました。
- ③ 規定整備
ガバナンス強化のため『内部通報（ヘルプライン）規程』『コンプライアンス規程』『経理規程』を定めました。



谷野 ちひろ / Tanino Chihiro

広報部門長。転職支援会社やIT企業の人事を経て2021年5月に入社。趣味は読書で、好きな作家は西加奈子さん。

入社理由

学生の頃からホームレス・貧困支援を仕事にしたいと思って活動してきたから
相談員・永井

子育てする際に、人種、肌の色、職業やバックグラウンド等にかかわらず相手の立場にたって考えられるように育てたかったので、まず親としてその姿を見せたかった
受付・安武

コロナになり、仕事があたり前にできる日常が崩れる中で、これまでの就労者向けの相談窓口だけでは対応しきれない問題がありそうだと感じたから
相談員・石黒

断れなくて・・・
理事長・川口

予想より相談が多かった日本全国から相談が来るので驚いた
就労支援員・小池

入社後のギャップ

みんなバイリンガル
就労支援員・荻野

ITツールが多く導入されている＆残業が少ないことNPOのイメージと逆でした
広報・谷野

ものすごい事業の数を少人数でまわしている
広報・中司

川口さんが超自然体だったこと（いつも朝礼で癒されています・・・）
会計・亀井

職員の皆さん、個々のキャラクターがとても素敵です
会計・亀井

悩んでもほかの人に気軽に相談できます
相談員・浦越

どんな人も受け入れるところ
理事長・川口

Homedoorのイトコロ

良い意味で「こうでなければならない！」というものがなく、皆明るくて柔軟です
受付・宇山

心根の優しい人たちが集まっているところ
事務局長・松本

みんな個性があって、それぞれを認め合っているところ
相談員・石黒

			11期	12期	前年度比	
経常収益	受取寄付金（サポーター会費含む）		71,124,779	80,522,337	113.21%	
	受取補助金		9,489,078	5,032,467	53.03%	
	事業収益	自主事業収益	58,599,002	143,864,353	243.51%	
		受託事業収益	9,145,522	8,261,008	90.33%	
		事業収益 計	67,744,524	152,125,361	224.56%	
	その他収益	受取利息・雑収益	4,896	21,431	743.72%	
経常収益 計		148,363,277	237,701,596	160.22%		
経常費用	事業費	1. 人件費	スタッフ賃金	33,210,219	51,580,121	155.31%
			臨時雇賃金	8,031,529	9,046,277	112.63%
	2. その他経費	業務委託費	1,488,496	1,512,212	101.59%	
		印刷製本費	959,200	1,296,019	135.11%	
		旅費交通費	1,054,416	2,452,503	232.59%	
		通信運搬費	901,218	1,497,139	166.12%	
		水道光熱費	1,975,954	2,880,739	145.79%	
		消耗品費	4,552,754	9,185,258	201.75%	
		地代家賃	8,753,300	8,775,600	100.25%	
		修繕費	412,225	220,500	53.49%	
		減価償却費	3,560,196	2,521,825	70.83%	
		支払手数料	3,928,202	68,025,825	1731.73%	
		租税公課	3,196,500	7,955,830	248.89%	
		その他	506,441	6,032,488	1191.15%	
	その他経費 計		31,288,902	112,355,938	359.09%	
	管理費	1. 人件費	2,738,373	2,633,393	96.17%	
		2. その他経費	2,300,071	2,865,841	124.60%	
	経常費用 計		77,569,094	178,481,570	230.09%	
経常外収益			0	0	0.00%	
経常外費用			0	0	0.00%	
法人税、住民税及び事業税			2,644,600	1,772,700	67.03%	
当期正味財産増減額			68,149,583	57,447,326	84.30%	
前期繰越正味財産額			145,237,978	213,387,561	146.92%	
次期繰越正味財産額			213,387,561	270,834,887	126.92%	

寄付者数は2021年度に比べるとやや減少しました。しかしながら、遺贈寄付など大口のご寄付を頂戴したため寄付金額は増加しました。

事業収益の内、HUBchariで使用している「ドコモ・バイクシェアシステム」の精算方法が変わり、売上が大幅に増加していますが、運営費用も同様に増加しているため、実質的には前年並みの純利益となりました。

就労支援体制、バックオフィスを充実させるためスタッフを増員しました。

相談者の宿泊希望が増え、アンドセンターの定員を超えたため、近隣ホテルを手配し、費用が増えました。

電気・ガス代の高騰の影響や、アンドセンターの稼働率上昇で費用が増えました。

上述にもあるように、「ドコモ・バイクシェアシステム」の精算方法が変わった影響で、HUBchariポート設置に必要な消耗品費、支払手数料が増えました。

クラウドファンディングで実現した写真集「アイム」の出版費用が含まれています。

宿泊施設の拡充に向け、2020年度から「施設整備積立」を行っています。2023年度は実現に向けて資産を充当する予定です。

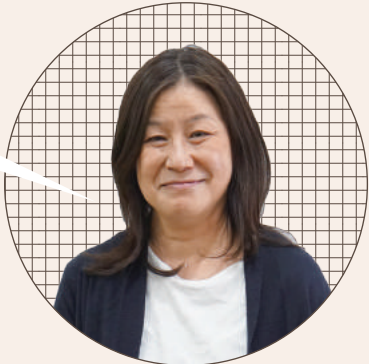
会計報告

ACCOUNTING REPORT

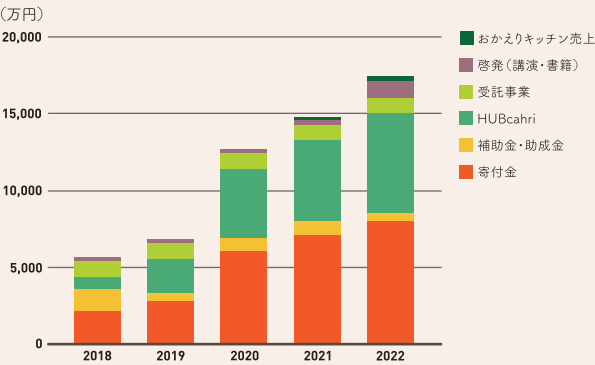
この5年間は、アンドセンターやおかえりキッチンの開設、コロナの影響などさまざまなことが起こりました。会計専属のスタッフとして入職した私の視点から、この5年間のHomedoorの会計をふりかえります！

亀井 有子 / Kamei Yuko

会計担当。6年間のボランティアを経て、第3の人生として2023年1月に入職。
若いスタッフに助けられながら奮闘中！趣味はパンダ動画を見ること。



POINT 1 収益の推移（5年間）

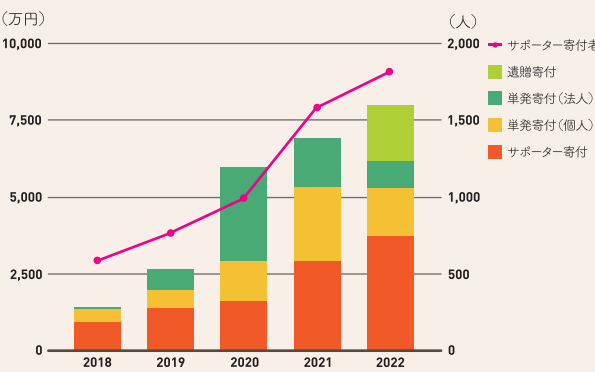


毎年、順調に収益を伸ばしています！

Homedoorの収益構造の特徴は、特定の収入源に偏ることなく、さまざまな財源をバランスよく組合わせている点にあります。また、各事業ごとに業務改善を日々行っていることで、すべての事業が順調に伸びています。特に、シェアサイクル『HUBchari』は地道な営業活動が続けた結果、NPO法人でありながら1億円規模の事業収益を実現しています。もちろん、就労支援の場としても雇用枠を年々拡充できており、多くの相談者の再スタートのきっかけとなっています。

* グラフ中の2022年度HUBchari収益額は、支払手数料(ドコモ)を差し引いた額です。(対前年比較の表となるため)

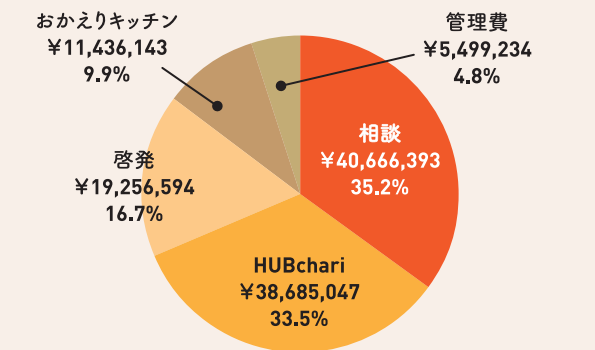
POINT 2 寄付の推移（5年間）



初めての遺贈寄付がありました

Homedoorは2016年度に認定NPO法人となり、2021年度に初めて迎える5年目更新も無事に終えることができました。この5年、非常にありがたいことに、ご寄付額も増えている中で、2022年度は初めての遺贈寄付をいただきました。遺贈寄付とは、生前に個人の方が「遺言」によって自身の財産の一部またはすべてを特定の団体に寄付することです。また、サポーターの寄付者数は順調に増加しており、2022年度は寄付金のうち、サポーター寄付の割合が約47%となりました。これからも、多くの人に支えられる団体を目指し、着実に誠実な組織運営を行ってまいります。

POINT 3 部門別費用実績（2022年度）



相談部門の支出が最多です

非営利事業である相談部門は、年間1,000件以上の相談に無料で対応しています。左図の通り、全体の費用の約35%を占め、割合が高くなっています。ひと言で相談といっても多様化する相談者に対応するため、そのサポートの内容も様々です。ご寄付を原資に活動しているからこそ、相談者の状況に合わせて、その時々本当に必要な支援を現場の判断で柔軟に対応ができています。また、増える若年層ホームレスの人々への就労支援を強化するため、2022年度は就労支援員を新たに2人採用し、相談対応の充実を図りました。

* グラフ中のHUBchari費用額は、支払手数料(ドコモ)を差し引いています。(POINT 1 収益推移表に準じます)

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、特定非営利活動法人Homedoorの活動を正しく示していることを認めます。



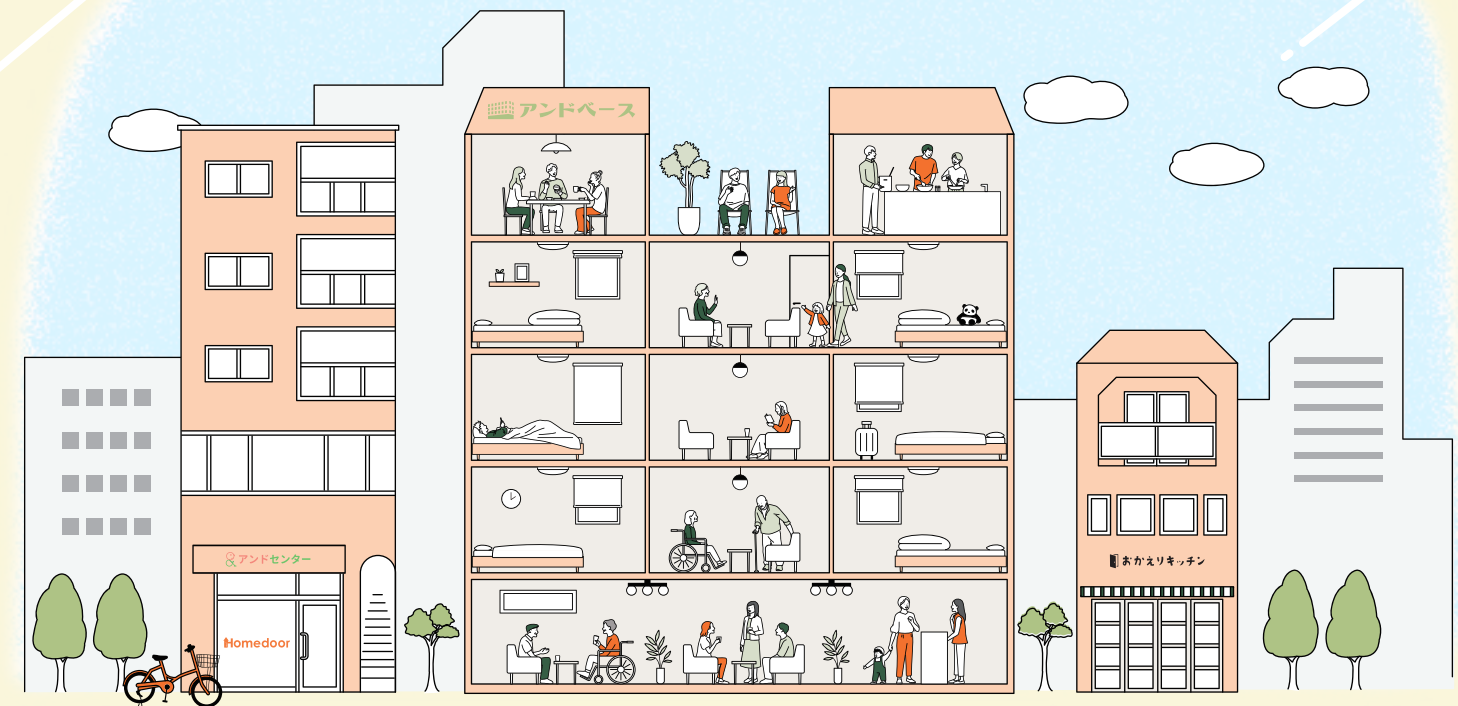
顧問税理士
准認定ファンドレイザー
中山 麻衣子



Homedoor監事
杉浦 元

困窮状態に陥った多様な層を受け入れる「インクルーシブシェルター」はじめます

NEW OPEN!!

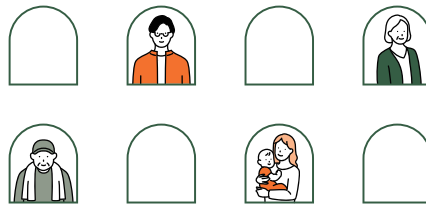


2023年、新施設『アンドベース』始動！

貧困と孤立状態にある人に選択肢と居場所を届けます。

2010年に活動を開始した認定NPO法人Homedoorでは、ホームレス状態の人を対象に路上脱出のための支援を行ってきました。ところが、活動が続けるなかで、ネットカフェや友人宅を転々としている若者や、家賃滞納で家を出ないといけないファミリー世帯、国籍や障害、年齢が理由でひとり暮らしが困難な人といった相談者層の広がりを感じました。

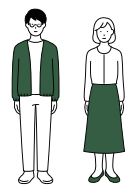
自分の状況・特性を踏まえながら就労支援を受け、ゆっくりと将来を考えられる機会。不安を感じることなく過ごしてもらえ家族で泊まれる個室シェルター。多様な層が交わりながら、次のステップへと歩みだせるスペース。そんな場所が必要だと感じました。そして誕生したのが、インクルーシブシェルター『アンドベース』です。

 アンドベース


About

アンドベースは、Homedoorの運営する新たなシェルターです。個室24部屋、団らんスペース、キッチン、相談室2部屋、就労支援等の講座を受けられる教室など、様々な設備を備えています。若年層相談者や母子等のファミリーでの相談者、高齢者や障害者と幅広い層に宿泊いただけるように配慮されています。

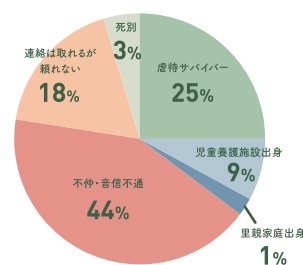
POINT 1 頼れる人がいない若者に、頼れる環境を。



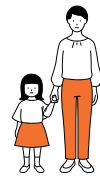
Homedoorへの相談者の約半数が、10~30代の若年層です。その特徴として、生育環境に課題があった結果、非正規雇用を転々としている人が多いという調査結果が出ています。『実家』というセーフティネットの欠如は、経済面だけではなく、精神面にも大きな不安となります。アンドベースでは、そういった若者を対象に、長期間滞在が可能な就労支援付き宿泊施設を提供します。

10~20代のアンドセンター宿泊者
生育環境について

(不明を除く、N=200)

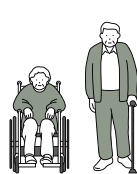


POINT 2 大切な家族と新しい一歩を。



セキュリティを高めた女性・母子専用フロアを設置し、様々な理由で単身・母子での生活を余儀なくされた人たちの受け入れを新たに開始します。既存の行政シェルターには様々な制限（一緒に入居できる子どもの年齢や人数、携帯電話等の所持禁止、外出制限、通勤や通学ができないなど）があり、共同生活となります。このため、シェルターへの避難を諦めてしまう人も数多くいます。アンドベースでは、当事者のニーズに合わせて柔軟に対応し、『断らない支援』を展開していきます。

POINT 3 車椅子でも使えるシェルター、できました



既存のシェルター『アンドセンター』では、せまき急な階段しかないため、歩行が困難なホームレスの人々の受け入れが難しいという課題がありました。ホテル手配や行政連携を行うも、ワンストップではない支援は関係が途切れてしまうこともありましたが、しかし、アンドベースにはエレベーターがあるため、障害者や高齢者も幅広く受け入れることができます。基本的な生活支援の提供はもちろん、本人の希望に応じて、連携している医療機関での受診や障害者手帳の取得、福祉サービスの利用を調整し、地域でのひとり暮らしができるようにサポートします。

Support

アンドベースの運営を支える3000人のサポーターを新たに募集！

アンドベースは行政からの補助金のない民間シェルターとして運営します。運営のためには月 300 万円が必要になります。1 口 1,000 円 / 月~のご寄付で、Homedoor の新たな取り組みを応援してください。

特設サイト：www.homedoor.org/andbase/

特設サイトはこちら



Homedoorは多くの企業さまから応援いただいています！



株式会社イトーキ



イトマン株式会社



大阪ガス株式会社



塩野香料株式会社



大和リース株式会社



キーン・ジャパン合同会社



倉敷紡績株式会社



クローム・インダストリーズジャパン合同会社



サントリーホールディングス株式会社



J R 西日本グループ



てつたろう



株式会社電通



株式会社ドコモ・バイクシェア



南海電気鉄道株式会社



西日本電信電話株式会社



日本情報通信株式会社



株式会社ネイチャーズウェイ



不二熱学工業株式会社



株式会社フレスコ



ボストンクラブ



社会福祉法人丸紅基金



兵庫県靴下工業組合



一般社団法人ミナミ御堂筋の会



株式会社ムラサキスポーツ



株式会社モンベル



株式会社ライツ社



株式会社ワークマン



小林 健司さん

JR西日本レンタカー&リース株式会社

Homedoorさんが運営されているシェアサイクル『HUBchari』において、JR西日本グループでは、駅周辺の空きスペースを活用しポートを設置することで、近隣にお住まいの方、お勤めの方、鉄道利用者に駅から(まで)のアクセスとして便利に自転車をご利用頂くとともに、MaaSによる連携も進めており、WIN-WINの関係です。今後もHUBchariを通して、Homedoorさんの活動を応援していきます。

法人ができること

アンドベース設立基金スポンサー募集中!!

＼応援してください！／



アンドベース

設立必要資金
5億円

3億円

▶ 不足金

1億円

▶ 助成金

1億円

▶ 自己資金

Homedoorの新プロジェクト『アンドベース』を始めるために必要な5億円の内、3億円が足りていません。ぜひ、夢の施設始動に向け、ご寄付でご協力ください！

※Homedoorは認定NPO法人です。

①一般の寄附金損金算入限度額に加え、
②特定公益増進法人に対する寄附金の損金算入限度額が設けられています。
限度額は右のQRコードよりお調べいただけます。



共同創設者

寄 付 金 額 :1000万円
募 集 企 業 数 :10社

特典

- ① 建物玄関へのロゴ(大)掲出
- ② 特設サイトへのロゴ掲出
- ③ 理事長・川口の出張講演
- ④ 活動現場見学にご招待
- ⑤ プレスリリース配信のお手伝い
- ⑥ 感謝状 / 感謝ムービー贈呈

ゴールドスポンサー

寄 付 金 額 :500万円
募 集 企 業 数 :20社

特典

- ① 建物玄関へのロゴ(小)掲出
- ② 特設サイトへのロゴ掲出
- ③ スタッフの出張講演
- ④ 活動現場見学にご招待
- ⑤ 感謝状贈呈

シルバースポンサー

寄 付 金 額 :250万円
募 集 企 業 数 :40社

特典

- ① 建物玄関への企業名掲出
- ② 特設サイトへのロゴ掲出
- ③ 活動現場見学にご招待
- ④ 感謝状贈呈

他にもこんなことができます!!

1 ポート用地の提供

シェアサイクル「HUBchari」では、ビルなどの軒先に自転車置いていただける企業さまを探しております。また、HUBchariの後輪部には広告スペースもあり、走る広告塔の役割にもなります。ぜひ、ご検討ください。

3 求人/仕事の提供

相談者の平均年齢は41.3歳と比較的若く、チャンスや環境さえあれば働ける方も多いです。そこで、有料職業紹介での求人マッチングや、業務委託での仕事の提供をしています。ぜひ、仕事での連携をご検討ください。

2 講演会を開催する

貧困問題を少しでも多くの方に知っていただける機会を探しています。これまでも多くの企業さまで講演させていただき、「起業家マインドが培われた」など、高い評価をいただきました。ぜひ、社員研修にお呼びください。

4 物資の寄贈をする

食料品、衣料品、生活用品、家具家電など様々なもののご寄付を承っております。備蓄品やサンプル品などのお引き取りも可能です。数量が多い場合は、事前にご相談いただけますと幸いです。

まずは気軽にお問い合わせください！

担当 谷野 ちひろ

TEL 06-6147-7018

info@homedoor.org



ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくるために
寄付で私たちのチャレンジを応援してください！



3,000円

で
専門相談員によるカウンセリングを
提供できます



5,000円

で
相談者がアンドセンターで
ゆっくり休めます



10,000円

で
相談者が新居に移る際に
新生活応援キットをプレゼントできます

オススメ サポーター会員になる(継続寄付)

1日30円から継続的にサポートできます。
サポーター会員のみなさまには会員カードなどの
サポーターセットをお送りします。

クレジットカード決済で

ウェブサイトから簡単にお手続きできます。

www.homedoor.org/besupporters



口座振替で

お電話かメールをいただければ、
口座振替申込書をお送りします。

☎ 06-6147-7018

✉ info@homedoor.org

好きな額で寄付をする(単発寄付)

ご都合の良い時に、ご自由な金額・回数で
ご寄付いただけます。
ポイントなどお金以外の方法での寄付もできます。

クレジットカード決済で

ウェブサイトから簡単にお手続きできます。

www.homedoor.org/donatedetail/



銀行振込で

下記口座にお振込ください。銀行振込の特性上、使
途を確認できないため、お手数ですがフォーム
(www.homedoor.org/donatedetail)よりご連絡く
ださい。

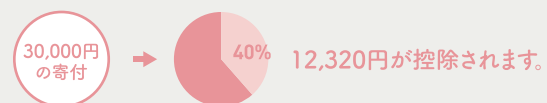
三井住友銀行 梅田支店(127)
普通 8928985
トクテイヒエイリカツドウホウジンホームドア



Homedoorへの寄付には 税制優遇があります！

認定NPO法人への寄付には税控除の対象にな
ります。確定申告で、寄付額の約40%が所得税と
住民税から控除されます。

例) 年間30,000円の寄付をした場合、
12,320円が控除となります。



所得税(30,000円-2,000円)×40% = 11,200円
住民税:(30,000円-2,000円)×4% = 1,120円

Amazonで直接物を買って支援ができます！

夜回り活動や宿泊施設、相談支援に必要な物資
を、Amazonで買ってほしい物リスト『ウィッシュリス
ト』として公開しています。ウィッシュリストの中から、
贈りたいと思っていただいた物を選び、直接購入
いただくと、Homedoorの事務所に配送される仕
組みとなっています。匿名でのご支援も可能です。

Amazonウィッシュリスト
www.amzn.to/442CCqF



Homedoorを応援しています！

たくさんの方々に応援していただきながら活動しています。



西村 章さん

Homedoorへの感謝をこめて

Homedoorの支援を受けて、大阪に住むようになりました。大阪
に来て8年、住まいを得て6年になります。世話になった感謝をどの
ような形で支援しようかと考え、夜回りの参加と毎月の寄付をして
います。住まいがなく困っている人を支援できれば幸せです。一人
でも多くの方がHomedoorを通じて助かることを願っています。

応援する学びとよろこび

以前より応援していたHomedoorの夜回りに初めて参加しました。
イメージしていたものと現実とのギャップに驚き、見えていなかった
社会のありようを学びました。川口さんは、温かいお弁当を抱えて
歩き回りながら、つかず離れずの絶妙な距離感で声をかけていま
した。寄り添うとはこういうことなのだ、と思いました。同時に、活動
しているみなさんも寄り添ってくれるサポーターを必要としている
のだとも思いました。サポーターとして応援できることを幸せに思
います。



秋山 咲恵さん

株式会社サキコーポレーション ファウンダー
三菱商事株式会社 社外取締役

Homedoorを 推薦します！



鳥井 信吾さん

サントリーホールディングス
代表取締役副会長

応援しています！スコール！！

Homedoorのオフィスやカフェを見学させて頂きましたが、施設内
は明るい雰囲気最先端のスタートアップ企業を思わせるような
インテリアはとても素敵だと思いました。

川口さんの「知ったら知った責任がある」というモチベーション論
は素晴らしく、「私は夢を求めるより合理主義です(笑)」とお話を
される姿も爽やかな印象でした。

困難多きことと思いますが、信じる道をまっすぐ歩んでください。
これからもHomedoorさんの活動を応援していきます。

※スコール=スカンジナビア語で「乾杯」という意味。「共に船出しよう」という意味もある。



ホームレス状態を生み出さない日本に

認定NPO法人Homedoor Annual Report 2022

(2022年度年次報告書)

 www.homedoor.org

 認定NPO法人Homedoor

 @Homudokun

 Homedoor

 npo_homedoor

所在地	〒531-0074 大阪市北区本庄東1-9-14
問合せ先	06-6147-7018 / info@homedoor.org
設立	2010年4月 / 2011年10月 NPO法人格取得 / 2017年1月 認定NPO法人に認定
ビジョン	ホームレス状態を生み出さない日本の社会構造をつくる
役員	理事長/川口 加奈 理事/松本 浩美(事務局長と兼任) 理事/竹原 啓二(株式会社フューチャー・デザイン・ラボ 代表取締役会長) 理事/岩田 真吾(三星テキスタイルグループ 代表取締役社長) 監事/杉浦 元(株式会社オウケイウェイブ 代表取締役社長)
スタッフ	事務局スタッフ 13名(内2名が役員を兼任) おかえりキッチンスタッフ 5名 ボランティア登録者 2094名 相談ボランティア 37名